

## 12/11 ルカの福音書 1 章 8-23 節「その時が来れば実現する主のことば」

小池 宏明 牧師

アドヴェント第三週は、異邦人に宛てて記されたルカの福音書を開く。彼は自ら「尊敬する」と言っているテオフィロという異邦人に、救い主イエス・キリストの出来事を伝えるために、綿密に調べて、順序立てて報告書をまとめるように書き留めている。その最初に出て来るのがバプテスマのヨハネ誕生の経緯だ。ルカは、イエス・キリストの誕生の前に、主の道を整える者が現れると伝えている。

### \*約 400 年の沈黙を破って

御使いガブリエルは、祭司のザカリヤに生まれるヨハネの使命を伝えている。17 節「彼はエリヤの霊と力で、主に先立って歩みます。父たちの心を子どもたちに向けさせ、不従順な者たちを義人の思いに立ち返らせて、主のために、整えられた民を用意します。」これは、ヨハネ誕生の約 400 年前のマラキ書の成就を示す。マラキ書の最後の言葉（4:5-6）は「見よ。わたしは、【主】の大いなる恐るべき日が来る前に、預言者エリヤをあなたがたに遣わす。彼は、父の心を子に向けさせ、子の心をその父に向けさせる。それは、わたしが来て、この地を聖絶の物として打ち滅ぼすことのないようにするためである。」エリヤは、マラキの時代から見ても 470 年も前に、北王国イスラエルでアハブ王の時代に活躍した預言者だ。主は、このエリヤを遣わすと約束して、その後何の音沙汰もなく 400 年も過ぎてしまった。しかし、このエリヤの霊と力を帯びた男子が、ザカリヤ夫婦の間に生まれて来るというのだ。この 400 年間、主のことばが途絶えていても、主は救い主誕生とその後の福音宣教の備えをされていた。ローマ帝国の支配下で、陸路と海路が整備されて、救い主の御ことばと御業が世界中に伝えられる準備が整っていた。

### \*主の時が来れば

20 節の御使いガブリエルの言葉に注目する。20 節「見なさい。これらのことが起こる日まで、あなたは口がきけなくなり、話せなくなります。その時が来れば実現する私のことばを、あなたが信じなかったからです。」

「その時が来れば実現する私のことば…」主なる神様の時の流れと私たち人間の時の流れとは、まるで違う。主なる神様には、私たちが想像もつかないご自身の計画があり、実現の「その時」に備えて着々とその計画を進めておられる。私たちが主の御声が聞こえないと思う時であっても、確かに主は働いておられる。主の時が来れば応答があるのだ。主なる神様に全き信頼をおいて、期待しながら、新しい一週を出発しよう。